

## 第 55 回日経・経済図書文化賞決まる

2012 年 11 月 3 日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の 2012 年度・第 55 回「日経・経済図書文化賞」受賞図書は、次のように決まりました

《受賞図書》賞（賞金 100 万円および副賞として記念品を著者へ、賞牌を出版社へ贈呈）

### 「高品質日本の起源」

小池和男著（日本経済新聞出版社）

### 『失われた 20 年』と日本経済

深尾京司著（日本経済新聞出版社）

### 「イノベーションの理由」

武石彰・青島矢一・軽部大著（有斐閣）

### 「近世米市場の形成と展開」

高槻泰郎著（名古屋大学出版会）

### 「自滅する選択」

池田新介著（東洋経済新報社）



### 総評

## 良書、幅広い分野で健在

審査委員長／東京大学教授 吉川 洋

今年度は 4 年ぶりに受賞作が 5 点、幅広い分野で生まれた。経済・経営に関連した分野の出版活動が著者、出版社双方の努力により健在であることは、良質な書物の出版が難しいといわれる今日、喜ぶべきことである。

『高品質日本の起源』（小池和男著）は、労働経済学を長年リードしてきた大家による研究の総括ともいえるような作品である。日本の製造業の生産性を支える柱である職場の労働者の「発言」の起源を、戦前までさかのぼり探究したもので、丹念な実証分析は多くの審査委員から高く評価され、傘寿を迎えた著者のエネルギーに感嘆するという声もあがった。

1990 年代初頭にバブルが崩壊した後、日本経済は「失われた 10 年」に突入。それは今や「失われた 20 年」と呼ばれるようになった。『「失われた 20 年」と日本経済』（深尾京司著）は、日本経済の長期

停滞を理論・実証両面から分析し、停滞脱出への方策を探った意欲作である。

全要素生産性の計測を中心とする供給サイドの分析が需要不足の問題とどのように関係しているのか明確でないという指摘もあったが、需要、供給両サイドから分析した点が多く、審査委員から支持を集めた。

途中で挫折することなく製品化という最終ゴールまで到達したイノベーションの秘密はどこにあるのか。『イノベーションの理由』（武石彰・青島矢一・軽部大著）は、膨大なケーススタディに基づき、こうした問題を解明した労作である。イノベーションは原初のアイデアから製品化に至る途上で、次々に追加的な資源投入が必要となる。それはどのように正当化され、実行に移されるのか。成功事例を通し、詳細に分析した点が評価された。

江戸時代、大坂堂島の米市場が高度に発達した市場であったことはよく知られている。それだけに戦前以来、多くの経済史家により定番の研究テーマとされてきた。『近世米市場の形成と展開』（高槻泰郎著）は、既存の研究の枠組みを超え、新しい地平を開いた好著。

ただ、これまでの月次データを日次データに拡張し、市場の「効率性」を実証的に分析しているにもかかわらず、得られた結果がどのような意味を持つのか、著者の基本的な視点がいまひとつ明確でないとの指摘もあった。

『自滅する選択』（池田新介著）は、今日やるか、明日に先延ばしするかという誰もが経験する「異時点間の選択問題」につき、行動経済学や心理学の分析結果を活用しながら平易に解説した。借金や肥満、ギャンブルなど身近な例による分かりやすい叙述が良質の啓蒙書として評価された。

以上5点の受賞作以外にも優れた書物が数多くあり、審査委員会ではそうした書物についても熱心な議論が行われた。

『戦前期日本の金融システム』（寺西重郎著）は、大家による900ページを超える大著である。長く学界の財産となるべき書物である点で審査委員の意見は一致したが、著者が同じ分野で過去に受賞しているため、対象外となった。

『カール・ポランニー』（若森みどり著）は、一次資料まで調査した労作である。今後日本のポランニー研究の礎となると評価されたが、従来のポランニー像を超える著者自身の解釈が何なのか不明瞭との意見が出て、受賞を逸した。

『贈与と売買の混在する交換』（古瀬公博著）は、後継者難に悩む中小企業が仲介業者を通して他社に事業を売却する際、創業経営者が抱く葛藤、そこから生じる「贈与と売買の混在する交換」について分析した書である。日本経済が悩む重要な問題に関して分析を行った興味深い書物だが、若い著者にはさらに上を目指してほしいという声が優勢だった。

『中小企業金融と地域振興』（今喜典著）は、日本の中小企業金融に関する研究書でそれぞれの章の分析は高く評価されたが、全体として明快なメッセージに欠けるということで選外となった。

『家計・企業の金融行動と日本経済』（祝迫得夫著）も全体としてのメッセージ性に欠けるということで惜しくも選から漏れた。

\*本文中の「総評」「書評」は、11月3日付日本経済新聞朝刊（特集面）から転載しています。

◇審査対象

2011 年 7 月 1 日から 12 年 6 月 30 日（外国語著書は 11 年 1～12 月）の間に出版された日本語または日本人による外国語で書かれた著作で、本賞に参加を得たもの（一般の人が自由に購入できる図書に限る）。

◇審査委員

（委員長）吉川洋東京大学教授

（委員）大山道広慶応義塾大学名誉教授

伊丹敬之東京理科大学教授

八代尚宏国際基督教大学客員教授

斎藤修一橋大学名誉教授

岩井克人国際基督教大学客員教授

本多佑三関西大学教授

杉原薫東京大学教授

伊藤元重東京大学教授

井堀利宏東京大学教授

樋口美雄慶応義塾大学教授

桜井久勝神戸大学教授

池尾和人慶応義塾大学教授

金井壽宏神戸大学教授

翁百合日本総合研究所理事

大竹文雄大阪大学教授

芹川洋一日本経済新聞社論説委員長

岩田一政日本経済研究センター理事長